

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果

文部科学省は、4月に小学6年生と中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。

今年度は、学習状況調査と国語、算数(数学)の2教科の学力調査が実施され、市内小学6年生156名、中学3年生151名が参加しました。

今回、本市の結果について公表します。
※鹿児島県の結果分析については、県ホームページ(<http://www.pref.kagoshima.jp/bao4/kyoiku-bunka/school/teichaku/kiso/h29gakukekk.html>)に掲載されています。

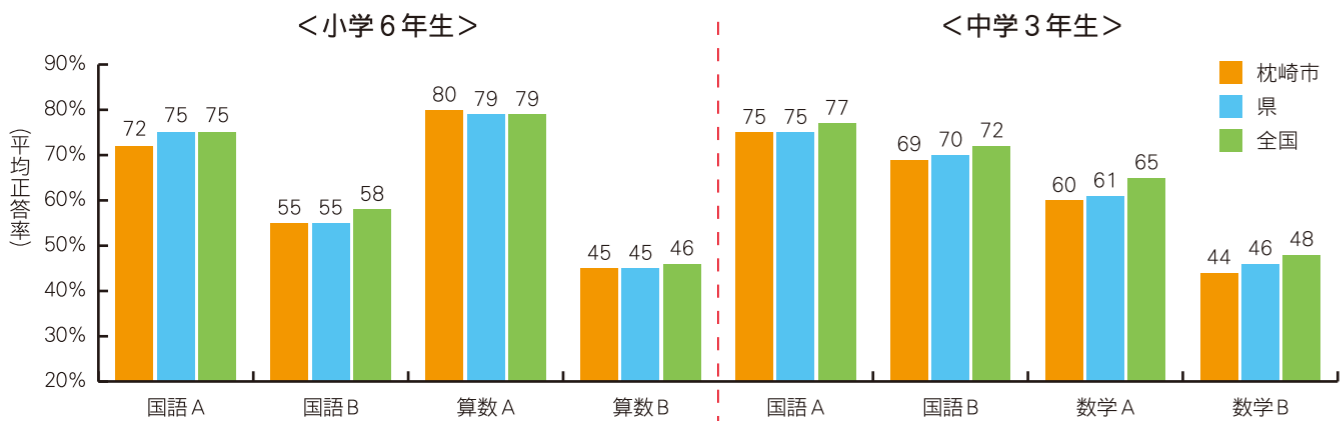
学習状況調査

児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活に関することを質問紙を用いて調査しました。

学力調査

次の2種類の問題が出題されました。
・A問題＝確実に身に付けておかなければならない学習内容を問う問題
・B問題＝知識・技能などを実生活のさまざまな場面に活用する力を問う問題

学力調査の結果と考察



考察

●小学6年生

【国語】

A問題は県を下回りましたが、B問題は県と同程度の結果です。B問題「読むこと」の領域は、全国平均を上回る正答率でした。中でも「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」ことを問われる問題では、全国平均を大きく上回る正答率でした。

課題は、互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合ったり、目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書いたりすることです。

【算数】

A問題は県平均を上回り、B問題は県と同程度の結果です。A問題の「数量関係」が全国平均よりも高い正答率でした。中でも「資料から2つの観点に着目して、2次元表に分類整理する」ことができるかどうかの問題では全国平均を大きく上回る正答率でした。

課題は、基準量・比較量・割合の関係や測定値の平均を求める工夫、理解したことや判断の理由を言葉や式を用いて数学的に表現することです。

●中学3年生

【国語】

A問題、B問題ともに県と同程度の結果です。また、B問題「読むこと」の領域が全国より高い正答率でした。中でも「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」ことができるかどうかの問題では、全国平均を大きく上回る正答率でした。

課題は、事象や行為などを表す多様な語句について理解すること、古文と現代語訳とを対応させて内容を捉えること、必要な情報を集めるための見通しを持つことです。

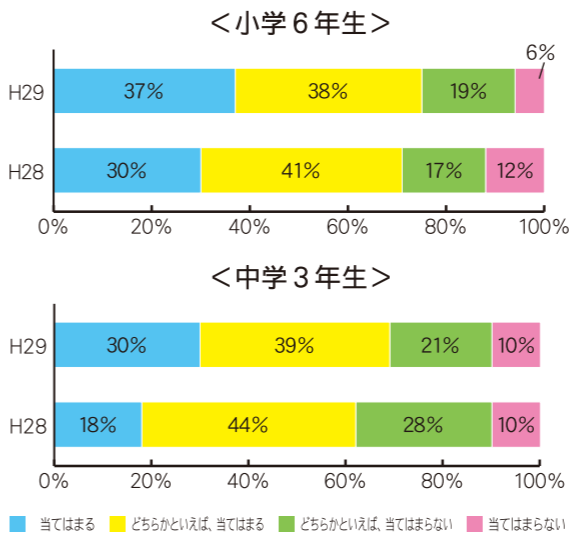
【数学】

A問題、B問題ともに県をやや下回っています。A問題の「資料の活用」は全国平均よりも高い正答率でした。中でも「範囲の意味を理解する」、「度数分布から相対度数を求める」ことができるかどうかの問題では全国平均を大きく上回る正答率でした。

課題は、事柄が成り立つ理由を事象に即して説明することや判断の理由を数学的な表現を用いて説明することです。

学習状況調査の結果と考察

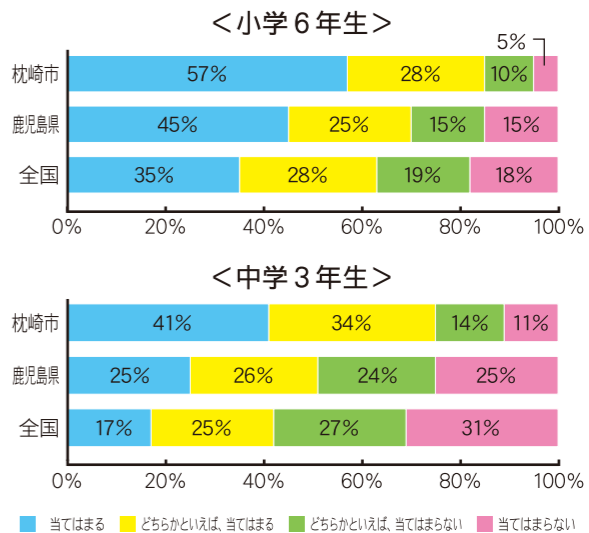
■自分には、よいところがあると思いますか。



考察

小学校の約75%、中学生の約69%が、自分にはよいところがあると思っています。昨年度と比べるとその割合が増えてきています。しかし、自分にはよいところがないと思っている児童生徒が小学校で6%、中学校で10%います。学校、家庭、地域で周りの人から認められたり励まされたりすることが、自分のよさに気付くことにつながります。

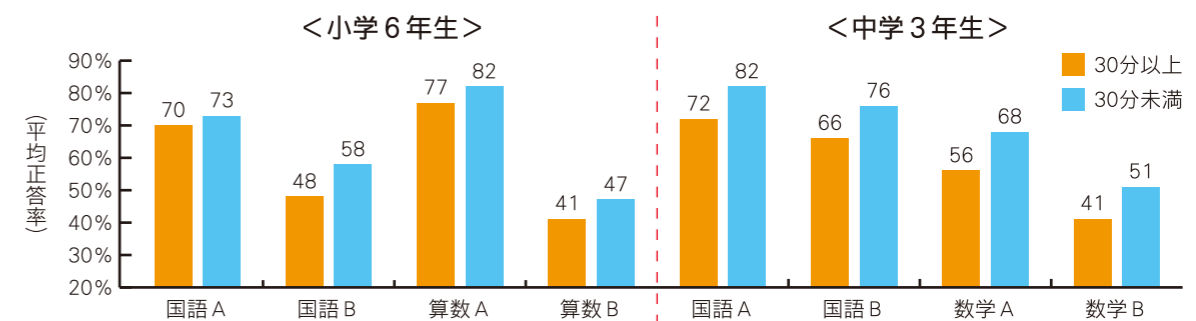
■今住んでいる地域の行事に参加していますか。



考察

小学校の約85%、中学生の約75%が、今住んでいる地域の行事に参加しています。全国、県と比較して地域行事への参加の割合が大変多いです。また、地域や社会で起こっている問題や出来事への関心も高く、地域や社会をよくするために何をすべきか考える児童生徒も全国、県と比較して多い結果が出ています。本市の児童生徒は、学校、家庭だけではなく、地域、社会に育てられていることが分かります。

■携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネット時間と学力調査結果との相関関係



考察

普段(月～金曜日)、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が1日当たり30分未満の児童生徒は、30分以上している児童生徒よりテストの正答率が高いことが分かります。また、スマートフォン等の使い方について家の人との約束をよく守っていたり、テレビやゲームの時間などのルールを決めていたりする児童生徒はテストの正答率が高い傾向があります。学習環境を整えるために、家庭でのルールを決め、守っていく必要があります。

学校外での生活状況と学力状況の相関関係

学力検査の平均正答率が高かった学習状況調査の内容

- ・ 普段(月～金)の1日当たりの読書をする時間が多い。
- ・ 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事を話している。
- ・ 家で自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・ 友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる。

今後の取組

本調査結果の分析を基に学校及び教育委員会では、家庭にも協力を呼びかけ、連携を図りながら子どもたちの学力向上に取り組んでいきます。

■学校では

- ・ 本調査結果から明らかになった課題を詳しく分析し、改善策を講じることで、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導の充実に努めます。
- ・ 授業の学習課題を工夫し、児童生徒の興味・関心を高め、主体的に学習に取り組めるようにします。
- ・ 授業において、ペアやグループでの話し合い活動を効果的に活用し、児童生徒が互いに意見を交流させ、深まりのある学習ができるように、発達の段階に即

した指導に取り組みます。

- ・ 授業の終末において、学習のまとめや学習を振り返る活動を確実に実施し、確かな学力の定着に努めます。
- ・ 小・中連携教育において、基本的な生活態度や望ましい学習態度を身に付けさせられるように、小・中学校の連携をさらに充実させます。
- ・ 各小中学校において、市で作成したリーフレット「効果的な宿題のために」を活用して、家庭と連携した家庭学習の充実を図ります。
- ・ あらゆる教育活動の中で、児童生徒のよいところを認め、励ますことで自信を育みます。

■家庭では

- ・ 本市の家庭学習目標時間の小学1・2年生40分、3・4年生60分、5・6年生90分、中学生120分に取り組めるよう、今後も各家庭へ協力をお願いしていきます。
- ・ ノーメディアデーの実施やインターネット機器の使用に関する家庭内ルールの重要性を伝えていきます。
- ・ 家族の会話時間をできるだけ持ち、子どもの成長を親子で楽しむ機会を多く設定できるように呼びかけていきます。

■問合せ 学校教育課 TEL 720170